

信州教師塾B 第2回 コミュニケーション研修会

～生徒・保護者・同僚との良好な関係を構築する～

12月20日（月）に「信州教師塾B」2回目の研修会が、上伊那教育会館講堂に約30名の受講者が集い行われました。今回は「コミュニケーション研修会～生徒・保護者・同僚との良好な関係を構築する～」をテーマに、折山旭様（信州ライフキャリア研究所代表・ライフキャリアカウンセラー）、栗原直美様（KOA株式会社・キャリアコンサルタント）を講師にお迎えしました。

折山様、栗原様の専門的なお話やお隣の方とのペア活動を通じて、それぞれが研修のはじめに設定した「今日のゴール」を目指し研修しました。はじめは硬かった受講生の表情が、研修が進むにつれやわらかな笑顔に変わっていく様子が印象的でした。

《 受講者の感想と研修の様子 》

コミュニケーションはもって生まれた才能ではなく、培ってきた処世術という言葉を引き、とても嬉しくなりました。子どもや保護者、同僚の先生など、様々な人とコミュニケーションをとる職に就いたのに、うまくいかないことも多く悩んでいたため、これから上手になっていけるかもしれないという希望がもてました。相手は、自分の鑑という言葉で常に思い出し、自分のできることから始め、相手との信頼関係を築いていきたいです。

今回教えていただいたコミュニケーションの仕方の中には、意外にも自分も意識していたことが多くありましたが、今回のように改めて整理して説明していただけると、とても納得できました。3つのきき方については、私自身取り入れていきたいと思いました。また、生徒にも同じ事を伝えていきたいと思いました。

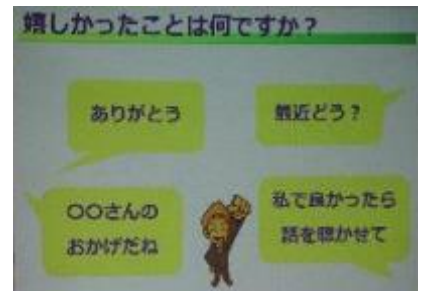
2分間の「共通点探し」は、席替えのタイミング等や単学活で取り入れていきたいと思いました。

私は養護教諭をしていて、誰とでも円滑にコミュニケーションをとれるようになりたいと思い受講しました。今回の話を伺い「無理に褒めなくていい」という言葉がとても印象的でした。

最近は褒めることで子どもの自己肯定感をあげなくては、と義務のように思ってしまうような気がします。まず、子どもを認める・受け止めることから始めていきたいと思います。

今までどんな同僚も保護者も子どもも「受け入れよう」としていました。でも、無理に受け入れて共感しなくてもよいと分かりました。「いったん受け止める」ということを大切にしたいです。

「事実」＋「気持ち」＋「嬉しい言葉」を使って相手を認めるというステップは、コミュニケーションをとる上で役に立つと思いました、明日からの生活で使っていきたいと思います。



《 講師 》



【 折山 旭 様 】



【 栗原直美 様 】

《 受講者の感想 》

まず相手の話を受け止めて認めるという話を伺い、自分はたまに相手の話を聞いて受け止めずに、こうした方がいいんじゃないとか言っていたと思いました。相手の話を受け止めることや「話くれてありがとう」と伝えることを意識して、子どもたちや他の先生方、保護者の方々とコミュニケーションをとっていきたいです。

折山先生のお言葉一つひとつが私自身の中に刺さってきました。今日、生徒に対して嫌な気持ちになることが多々あり、ため息をつきながらここまで来ました。研修が終わった今、本当に「サングラスの法則」だよな、と思っています。彼らのいいところをたくさん知っているのに、なんでこんなイライラしているのかな、と。この研修会で、もやもやした気持ちをすっきりさせることができました。

こんな素敵な講座を受けることができ、本当に幸せです。ご設営ありがとうございました。

第3回も楽しみにしています。

《終わりに》

次回は、来年2月17日（木）「作文力」をテーマに開催する予定です。今年度最終となる第3回研修会へ、多くの先生方にご参加いただけますようお願い申し上げます。